

はじめに

いつだったか、講義の折に、20代の女性からこんな質問を受けたことがありました。

「どうしたら、きれいな言葉づかいにすることができますか？」

少し話をしてみると、この女性は敬語がまったくできないというわけではなく、「ある程度はできるが、もっとうまく、もっと自然に話せるようになりたい」と考えているようでした。

「何となく直さないといけないと思うけど、具体的にどこをどう直せば正しくなるのかわからない」……そんな方におすすめの、すぐにでも実践できる「大人の言葉づかい」について簡単に触れてみましょう。

そもそも、大人の言葉づかいとは何でしょうか？

たとえば「とても」という言葉は、本来は「とても～でない」と、下に打ち消しの語を伴って使うものでした。

しかし、今では「とてもきれい」のようにプラスの意味で使われています。

本来の意味からするとそれは正しくないということになってしまいます。ですから、これからは「とても見てもらえない」などと使うのが日本人としての言葉の品格であり………というようなことは、この本では言いません。

言葉は時代とともに変わってくるものだからです。

言葉に必要なのは、正解か不正解かということだけでなく、何より「相手に配慮した言葉が使えているか?」「その場に応じてふさわしい言葉が使えているか?」ということです。

相手への心くばりが、言葉としてあらわれる。それが、大人の言葉づかいだと思います。

あなたが会社の部長だとして、部下から

「部長も明日の打ち上げに来てみたいですか？」

と言われたらどうでしょうか？

カチンときて、行きたい気持ちがあっても行ってやるか! という気分になるものです。

このように、同じ誤りであっても「しょうがないと笑って許せる可愛げのある誤り」とこの例のように、気づかず相手を不愉快にさせる「不快な誤り」とがあります。まずは、その点に気づいていくところから「大人の言葉づかい」は始まりま

す。気づき、意識することから始まるのだということです。

- ・つい使ってしまう誤った敬語や言い回し
- ・いつの間にか染みついてしまった口癖や書き言葉の癖
- ・お礼や謝罪などの気持ちの伝え方
- ・会話を楽しむための言葉の使い方
- ・相手にやさしい、わかりやすい言葉の使い方

など、本書では日常でよく遭遇する事例を豊富に取り入れ、
○×だけではなく、生きた敬語・心くばりの言葉づかい書を目指しました。

言葉とは、使う人自身を映す鏡です。

言葉を磨けば自分自身が磨かれていき、また自分を磨いていこうとする意識が言葉を磨いていきます。

ふとしたとき、言葉づかいに迷った際はページを開いて再確認、そんな「言葉づかいの教科書」としてご活用いただければ幸いです。

井上 明美